

2024年度 第2学年 技術家庭科（技術分野）年間シラバス

多摩永山中学校

【技術分野の目標】

- (1) 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習内容(予定時間数)

一学期（11）	二学期（16）	三学期（8）
【4月～5月】 情報基礎(5) コンピュータの構成・基本操作 情報社会と情報モラル 評価材料：授業プリントやノート	【9月～10月】 エネルギー変換(8) エネルギーの変換と利用 発電の種類と仕組み 評価材料：授業プリントやノート	【1月～2月】 製作品の製作(4) 材料・部品の特徴 工具の適切な使用 評価材料：授業プリントやノート 工具や機器の使い方
【5月～7月】 情報基礎(6) ワープロソフトの活用 表計算ソフトの活用 評価材料：授業プリントやノート 製作過程での技能、創意工夫	【11月～12月】 エネルギー変換(8) 電気エネルギーの利用（光・熱・動力） 電気の利用と安全・環境 評価材料：授業プリントやノート	【2月～3月】 製作品の製作(4) 実用的で安全な作品の製作 評価材料：製作過程での技能、創意工夫 作品の仕上がり、創造性

評価の観点と規準（各観点の割合はすべて達成率100%で統一する）

	評価の観点	評価の方法・資料	評価の規準のポイント、アドバイス
I	<知識及び技能> 各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価をするとともに，それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり，技能を習得したりしているかを評価する。	・課題などの提出物 ・工具や機器の使い方 ・製作過程での技能 ・作品の仕上がり	課題や提出物はA○、A、B○、B、Cで評価する。学習内容を踏まえ答えられている（仕上げられている）ものがB、その上に具体的に答えられている（仕上げられている）ものがA○。 ※A○～Aは9割以上、B○～Bは6～8割、Cは状況に応じて2～5割の配点。未提出の場合は配点なし。（評価材料なしとみなす）
II	<思考力・判断力・表現力等> 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。	・製作過程での創意工夫 ・作品の創造性 ・作品の仕上がり ・授業プリントやノート	・技術（ものづくりなど）に関するテレビ等を見て，様々な加工場面の中から，工夫されている所を発見しているかどうかを評価する。自分の生活の中から問題を見出して課題を設定し，計画を立てて実践したと認められる提出物を仕上げるとA○の満点。 ※A○～Aは9割以上、B○～Bは6～8割、Cは状況に応じて2～5割の配点。未提出の場合は配点なし。（評価材料なしとみなす） ・授業プリントやノートはA○、A、B○、B、Cで評価。学習内容を踏まえ答えられているもの（おおむね満足できる）がB、聞かれていることに対して学習内容を踏まえ，具体的に答えられているものがA○。
III	<主体的に学習に取り組む態度> 知識及び技能を獲得したり，思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために，自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	・「知識及び技能」の観点の評価 ・「思考力・判断力・表現力等」の観点の評価 [平常点] ・授業態度、提出物の状況などの平常点 など	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の内容について，指示に従ってしっかり行おうとしたり，学ぼうとしたりする。 ・思考力・判断力・表現力等の観点の内容について，指示に従ってしっかり行おうとしたり，学ぼうとしたりする。 [平常点] ・授業、課題に意欲的に取り組み，意見を積極的に発言しようとするかどうかをA～Cで評価する。授業観察で判定する。